

質問 Pick Up!

Q

女性が子どもを産み育てやすい社会の実現に向けて全庁をあげて取り組む必要があると思うが、市の見解は？妊娠出産包括支援事業は全区で早急に取り組んでいただきたい

A

「さいたま市地方創生・成長戦略統合推進本部」を設置し、三世帯同居・近居を支援する取り組みなど子育て世帯の支援を一丸となって強化する。また、妊娠出産包括支援センターは、できるだけ早期に全ての区で実施し、支援プランを進めていく。

Q

看護師不足の中、さいたま市立高等看護学院の学習環境の整備、教育体制の向上、さらなる定員増が望まれるが、市の対応は？

A

今年度から1学年60名の定員増に対応した新校舎を建設し、現校舎とほぼ同程度の面積を確保している。教育設備は最新鋭のものを設置する予定である。さらなる定員増はある程度の対策機関が必要であるが、積極的に努めていきたい。



Q

西区における通学路の安全対策について指扇領辻から指扇北小学校への通学路の具体的な整備予定は？

児童生徒がより安全に通学するための対策をさらにすすめていただきたい

A

平成28年3月に『暮らしの道路整備事業』が実施できることとなり、今年度は道路詳細設計や測量を行い、来年度に着工をする予定。

通学路の安全対策は、「さいたま市通学路交通安全推進協議会」を設置して取り組んでいる。要望箇所69件中51件はすでに対応に着手している。今後も手引きを作成し、また「ゾーン30」などの事業をさらに推進していく。

Q

荒川堤防の拡大化が行われる中、川越線橋梁の架け替えの予定は？また、川越線高架工事と複線化への本市の取り組みについて

A

国土交通省とJRとの調整で架け替えを行う予定と伺っているが、時期は未定であり、より一層推進を要望していく。川越線の高架化は3駅の橋上化を行ってきた経緯があり、現在のところ難しいと考えているが、日進以西の複線化や列車の増発については継続的に要望していく。

市政に関するご意見・ご要望がございましたら、
お気軽に声をおかけください！

プロフィール

1959年 島根県生まれ。国立療養所刀根山病院付属看護学校/大阪府立公衆衛生専門学校保健学科卒業。保健師として保健センター2年、看護師として病院9年、看護学校教員として20年（内教務主任9年）勤務。日本看護協会・日本看護連盟会員。

夫 故稲川晴彦市議会議員の後を継いで2015年さいたま市議会議員初当選。